

平成29年度 県立下館第二高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道を目標に、心身ともに健康で情操豊かな人間の育成に努める。 教育活動全体を通じ、自発的な学習意欲や自律の心、途中で諦めない精神力の醸成を図る。 マナー、絆、助け合うことの大切さ等道德教育の推進を図る。教育活動において、学校安全を意識した学校づくりをすすめる。				
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
成果	進学指導においては、埼玉大学・茨城大学などを含む国公立大学合格者数が11名であり、昨年を上回った。私立大学合格者数においては明治大学、法政大学等315名の合格者であり、若干下回った。家庭学習の励行により、より生徒の適性に沿った進路実現と質の充実につながっている。生徒指導面では生徒会中心のあいさつ運動や声かけ等により、あいさつや服装の着こなしなどは向上している。	・学習意欲の高揚と学力の向上	各教科の特性に応じて、アクティブラーニングの授業形態を推進し、興味関心を高める指導を工夫する。公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、生徒の実態に応じた選択授業（習熟度別授業等）などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。	A	
課題		・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実	挨拶や清掃を励行し、遅刻や欠席について対前年比10%減を目指し、正しい服装や基本的な生活習慣の確立を図る。また、交通安全教育を推進し交通事故の絶無に努める。	A	
		・キャリア教育の充実	キャリア教育の年間計画に基づき、計画に沿った進路行事を実施する中で、望ましい職業観・勤労観を育成する。生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。	A	
		・環境教育の充実と特別活動の活性化	学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。生徒会活動や部活動を通して社会性を高め、豊かな情操を養い、明るく活力ある学校づくりを推進する。部活動加入率70%以上を目標とする。	A	
	学力が中位層の生徒の学力をさらに向上させることが本校の課題である。キャリア教育と連携した指導により、学習意欲の喚起等具体的な方策を講じて課題改善を図りたい。年間遅刻者数は昨年度に対し12%減少しているが、依然として生徒指導面での課題として捉え、指導を継続していく必要がある。道德教育の充実や“下館二高3Aプラン(Assess, Act, Achieve)”の体制整備を図り、「生きる力」の育成に努めていきたい。	・「道德」教育の充実と「生きる力」の育成	自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道德」教育の充実を図る。 “下館二高3Aプラン(Assess, Act, Achieve)自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。	B	
		・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上	関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。学校安全委員会を年2回開催し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	教科の特性に応じてアクティブラーニングの授業形態を推進し、興味関心を高める指導を工夫する。		B	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善 自らの目標を見つけ、その解決に向けて進んでいく力の育成 希望課外の充実と奨励
		課題や小テストを通して学習理解度を確認する。		A	
学習評価においては、観点別に評価する。		B			
英語検定など、資格取得を奨励する。		A			
希望者には課外授業を実施して学力向上を図る。		A			
	ブライトホールや図書館を活用し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。		B	B
教	国語	学力の向上を図る。	生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、希望者には課外授業を実施する。 学習評価においては、観点別に評価する。 小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	A A B	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題を実施し、学習の習慣をつけさせる。 課題の内容や評価の方法を工夫し生徒の学力向上に役立てる。授業展開を工夫する。
		自学・自習の習慣を身につけさせる。	課題を定期的に点検し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	B	
科	地歴・公民	生徒の進路希望に応じた学力の向上に努める。	定期考査による生徒の学習状況確認、小テストや確認テストを行い、学習到達度を把握し、今後の指導に生かす。 生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。 生徒の進路実現のための各種模擬試験等に対しては、試験対策・解説授業を展開する。	B A A	<ul style="list-style-type: none"> 教科会を積極的に開き、情報の共有・自己研鑽に努める。 自学自習の習慣をつけさせる。
		広い知識と理解力の向上のために、授業の改善に努める。	教科会を定期的に開き、授業実態の把握と指導方法や授業内容の改善に努める。 高校教育研究会等の各種研修会に参加し、情報の共有や自己研鑽に努める。 必要に応じて外部講師等を招き、知識の有用性を認識させるため体験的な学習を展開する。	B B B	
	数学	学力の向上を図る。	生徒のレベルに合った授業展開をし、理解力を上げる。 課外授業を通して、学力の向上を図る。 小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図る。	B A A	<ul style="list-style-type: none"> 新テスト及び新しい学力観に対応したICT等を活用した授業研究を行う。
家庭学習の定着に努める。	定期的な課題を与え、家庭学習の定着を図る。	A	A		

理科	一人一人の能力を把握し、進路に応じた基礎学力の向上に努める。	生徒の進路希望に応じた授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。	A	B	・新課程により効果的に対応できる教科のカリキュラムや授業形態を検討する。
		休業中には課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	B		
実験を適宜実施し、科学的方法を学習させるとともに、興味・関心を高める授業展開を行う。		B			
学習評価においては、観点別に評価する。		A			
	視聴覚教材やICTを活用し、興味・関心の高揚を図る。	ビデオやDVD等の視聴覚教材、またはICTを利用した授業を展開し、生徒の学習意欲を高揚させる。	A	A	
保健体育	体力・理論を実技に生かし、自己の身体を発達・向上させ、その方法を身につけ、生涯を通じて運動ができる能力を養わせる。	生徒の興味・関心の持てる種目を取り入れる。	B	B	・生徒がより積極的・主体的に取り組むことができる授業展開。 ・基本的運動能力と基礎体力の向上。
		各種目の練習の仕方、ルールや審判の仕方の理解度を確認する。	B		
		学習評価に於いては、観点別に評価する。	A		
		自分に合った練習によって技能や記録の向上を図る。	B		
芸術	個別指導を充実させ、個性的・創造的な表現の能力を伸ばす。	生徒の実態に応じた授業選択を取り入れる。	A	B	・アクティブラーニングを積極的に取り入れ実践することで生徒の主体性を伸ばす。
		課題制作や実技テストを通じて、生徒一人一人の能力や到達度を把握する。	B		
	伝統文化への理解を深め、鑑賞能力を育成する。	作品発表を通して、互いに鑑賞し合う場を提供する。	B	A	・観点別評価を改善して評価の明確化を図る。
		視聴覚教材等を活用し、名作を鑑賞する機会を取り入れる。	A		
英語	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、英語の基礎学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	A	A	・新テストに向けての教材の再検討と思考力・判断力・表現力を高めるための工夫を図る。 ・生徒がより主体的に学習に取り組めるような授業を実践する。 ・自発的な学習習慣を定着させた。
		週末課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A		
		小テストを通して、学習理解度を確認する。	A		
		学習評価においては、観点別に評価する。	B		
		英語検定など資格取得を奨励する。	A		
		課外授業、土曜講座等を実施して学力向上を図る。	A		
自学自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	B	B		
家庭	家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。	個々の生徒の実態把握に努め、興味・関心を高める授業展開を図る。	A	A	・実践的な態度や能力を身につけさせるための工夫を図る。
		作業や実習を取り入れ学習効果を高めるとともに、ホームプロジェクトで実践的な能力や態度を身につけさせる。	B		
		実習やグループ学習を通じて、男女が協力して創造する態度を育み、キャリア発達を図る。	A		
情報	コンピュータ操作に慣れ、情報の基本的表現処理能力の向上を図る。	ワープロ・表計算ソフトを用いて、簡単な文書作成・データ集計ができるよう知識や技術の向上を図る。	A	A	・学習活動を行う生徒の様子を鑑み評価方法や課題等を柔軟に変更して指導する。
		課題提出を定期的に行うことにより、生徒の理解度を確認する。	A		
		学習評価に於いては、観点別に評価する。	A		
		放課後コンピュータ教室の開放日を設け、生徒が自ら実習できるよう援助する。	B		
教務	学校行事の精選と日課の適切な運営を行う。	各校務分掌、学年などと連携しながら年間行事予定や月別行事予定を作成し、日課を計画的に運営する。	A	A	・学校行事の精選
		学校行事や集会等の内容等を検討し、効率的な学校行事の運営に努める。	A		
	授業時間の確保と各教科の学力向上を図る。	出張等の授業交換を適切に行えるよう授業交換簿を適切に管理し、授業交換の情報提供に努める。	A	A	・定期考査ごとの授業時間の確保や曜日のバランスの均衡化
		学校行事等に伴う特編授業を編成し、授業確保に努める。	A		
諸帳簿・諸用紙の整備と保存、記録の正確化を期す。	学習成績等の情報の有効活用を目指す。	B	B		
	教職員が使用しやすいよう定期的に諸帳簿等を整備し、適切に管理する。	B			
情報管理	校内LANの適正な運営を行う。	校内LANを活用することにより、教員間における様々な情報の共有化を図る。	A	A	・次年度から導入する校務支援システムの準備を計画的に進めていく必要がある。
		迅速で正確な成績処理や個人情報の整理に努める。	A		
	学校業務のIT化を図り、円滑な学校運営を期す。	望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、進路情報が入手できるようインターネット環境の整備に努める。	A	A	
		ホームページを適切に管理・運営し、学校内外に対して様々な情報を提供する。	A		
	学校業務のIT化を図るため、関連する備品等の適切な管理に努める。	A	A		

特別活動	学校行事・部活を通して望ましい人間関係を形成し、連帯感のある豊かで充実した学校生活を送る。	文化祭・球技会は、生徒主体に企画運営を行う。	A	A	・部活動加入率70%達成と各運動部に対し、週1回の休養日を設けることを周知徹底する。 ・生徒会がより自主的活動ができるよう援助する。
		各学校行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導を徹底する。	A		
		学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。	A		
	特別活動を通して、自主性・協調性を養い、協力して諸問題を解決しようとする実践的態度の育成を図る。	学校行事の充実と向上を図る生徒会活動は、生徒主体による企画運営を行う。	A	A	
		生徒が部活動に積極的に参加できる環境を作り、部活動加入率70%以上を目指す。	A		
		生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。	B		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、挨拶の励行に努める。	年間を通し、昇降口において毎朝、挨拶・服装指導を実施し、よい習慣を身につけさせる。	A	A	・積極的に校内外巡視を実施し、問題行動の未然防止を図る。 ・公共マナーの向上を目指し地域との連携を図る。 ・HR・集会等を通じて、交通マナーと交通法規の遵守意識の向上とともに危機回避能力を養い交通事故の未然防止に努める。
		職員による校内外巡視指導を実施し、問題行動の未然防止に努める。	B		
		全校集会・学年集会・HR等でモラル教育を徹底し、規範意識の確立を図る。また、服装・頭髪の正常化を目指し、段階的な指導を行う。	A		
		教室や自転車の施錠を徹底し、盗難予防に努める。	B		
		遅刻者対策として、月5回以上遅刻した場合は保護者に連絡し、家庭と共に指導する。2ヶ月連続で5回以上遅刻した場合は、保護者に来校を求め学校と話し合いを持ちながら指導する。	A		
	交通安全教育の推進と事故防止に努める。	全校集会や学年集会・HR・校外登校指導等において、交通マナーの意識高揚を図る。	A	A	
		交通講話やバイク実技講習会を実施し、交通規則の遵守と命の大切さ呼びかける。	A		
		地元教育委員会や警察と連携し市内の巡回指導を計画的に行い、問題行動の未然防止を図る。	B		
	家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	家庭・地域社会・関係機関と連携して、生徒が自ら校則や社会のルールを守り、公共マナーを身につけるための活動をする。	B	B	
			B		
進路指導	生徒が自らが在り方・生き方を考え、主体的な進路選択ができるように支援する。	各年次で進路講演会、2年次は大学見学会を実施する。	A	A	・キャリア教育の年間指導計画の作成 ・生徒の学習意欲の高揚 ・大学入試新テストを見据えた指導内容の研究及び計画
		本校卒業生の受験報告会を実施する。	A		
		1日看護体験やリハビリ体験を実施する。	A		
		2年次でインターンシップ（医療系、教育・保育系など）を実施する。	A		
		年3回の面談週間を実施し、生徒の進路、学習方法、悩みを聞き、進路意識を高める。	A		
		プライトホールの利用を促し、自学自習の習慣の確立を目指す。	B		
	多様な生徒の実態に対応できるキャリア教育指導体制の確立を図る。	進学希望者に対して多様な課外講座を開設し、内容の充実と参加率の増大を目指す。	A	A	
		公務員・就職希望者に対して、指導を早期に行い、意識の高揚と進路実現に努める。	A		
		「進路の手引き」を発行し、進路情報を積極的に提供する。	A		
		「進路だより」を年3回程度発行する。	B		
進路情報を充実させる。	進路指導閲覧室の利用促進を図る。	B	B		
	前年度入試結果の情報を活用する。	B			
		A			
保健厚生	充実した高校生活を送るための心身の健康維持・増進を図る。	各学年と連携し、生徒の精神衛生の実態を把握し、指導に努める。	A	A	・安全・美化点検を定着させ生活環境の充実をはかる。 ・さらなる清掃の徹底をはかる。
		月毎に病気や健康に関する情報について、掲示物を通して生徒に知らせ、自己管理できる能力を育む。	A		
	生徒が安心安全に高校生活を送ることができるよう、環境整備・環境美化に努める。	月ごとに安全・美化点検を実施し、危険箇所・設備などの調査を行い、環境づくりに努める。 防災避難訓練等を通し、自ら危険等から回避できる能力を育む。 教室内の空気・照度検査、飲料水の水質検査を実施する。	A	A	
		学期始めと終わりの大掃除を行い、また1年生によるクリーン作戦や緑化活動を実施して、学校敷地内や通学路の環境美化を図る。	A		
			A		
	教職員・保護者の教育相談への啓発に努める。	カウンセリングの後の担任および学年との連絡を密にする。	A	A	
		P T A資料などで広報する。	A		
			A		
学年との連携を密にし、不適応生徒の支援に努める。	定期的に（年5回を目安）学年主任および関係者による情報交換会を持つ。	A	A		
	各学年と連携し、定期的に欠席や遅刻の多い生徒を掌握する。 不適応生徒には、早めにカウンセリングを開始する。	A			

図書	自学学習を支援するために図書室の充実を図る。また、明るく開放的な図書館を目指し、多くの利用者の促進をはかる。	図書館内の美化や図書の配置・整備を考え、利用しやすい環境を整える。	A	A	・来年度も引き続き読書会の充実をはかる。 ・図書整理に関するIT化を押し進める。いくつかの分野における全集の更新・刷新を進める。
		生徒に必要な図書購入に努め、進路実現の支援をする。	A		
	生きる力を身につけるための支援として、読書の推進を図る。	授業等で利用する資料を揃える。	B		
		生徒・職員の希望図書を購入し、「新着図書案内」を年5回以上発行する。	A		
渉外	PTA総会など各種行事への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	「図書館だより」を年5回発行し、生徒等の読書体験を紹介する。	A	A	A
		図書委員会主催の読書会を開催し、他の意見を理解する姿勢を身につける。	A		
		家庭と学校が連携を図り、生徒一人一人の健全な育成を図る。	A		
		PTA総会、各支部会活動を通して各支部の機能が十分発揮できるようにする。	B		
第1学年	基本的な生活習慣や規範意識を確立させる。	遅刻・欠席・早退を少なくし、自己管理意識の育成を図る。	A	A	・学習習慣・基礎学力の定着を図る。 ・進路学習をさらに進め、進路目標の早期具体化を促す。 ・様々な活動において、自発的な行動ができるよう指導していく。 ・挨拶の励行を徹底する。
		服装・頭髪指導の徹底を図り、高校生らしい身だしなみを身につけさせる。	A		
	進路意識の高揚と基礎学力の向上を図る。	挨拶の励行、ルール遵守等、規範意識の高揚を図る。	B		
		授業を大切に、予習・復習等の家庭学習習慣の定着を図る。	B		
第2学年	基本的な生活習慣や規範意識を確立させる。	LHRや進路行事を有効に活用し、早期の進路決定・自己目標の設定を促す。	A	B	・学習習慣の定着を図る。 ・精神面・学業面等支援が必要な生徒への支援を図る。 ・進路実現に向け、個別面談を始め、個々の特性を生かした指導を行う。 ・服装・頭髪指導及び生活指導の徹底を図る。 ・進路行事の精選・改善を進める。
		定期テスト・模擬試験等の分析を行い、学年の状態を客観的に把握する。	B		
	学習習慣の定着と基礎学力・進路意識の向上を図る。	部活動の加入を促し、充実した高校生活を送れるようにする。	B		
		学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。	A		
第3学年	進路目標実現へ向け生徒の進路意識を高め、進路指導の充実を図る。	欠席・遅刻・早退を減少させるとともに、自己管理意識の育成を図る。	B	A	・教員主導から、生徒主体の指導方法を考え、1年次から計画的に取り組む必要がある。 ・多様な進路希望に対応した進路体制の強化が必要である。 ・授業時間確保のため、模試の実施方法について、検討が必要である。
		服装・頭髪指導の徹底を図るとともに、マナーの向上に努める。	A		
	基本的な生活習慣と、規範意識の確立を目指す。	大学見学会やインターンシップ等を通して、進路意識を高める指導をする。	A		
		予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保し、主体的に取り組む姿勢を育成する。	B		
第3学年	基本的な生活習慣と、規範意識の確立を目指す。	定期テスト・模擬試験などの分析を行い、生徒の学力の状況を客観的に把握し改善を図る。	B	B	
		部活動への参加を積極的に奨励し、文武両道をモットーに、継続することの大切さ、忍耐力を育てる。	B		
	豊かな人間性をはぐくむ	学校行事や委員会活動に積極的に参加させ、さまざまな体験をさせることでコミュニケーション能力の向上を図る。	A		
		道徳教育やボランティア活動に自主的、積極的に取り組む。	B		
第3学年	進路目標実現へ向け生徒の進路意識を高め、進路指導の充実を図る。	挨拶の励行やマナーの遵守など、規範意識の高い、礼儀正しい集団を育成する。	A	A	
		進路希望や学力を把握し、個に応じた指導を行う。	A		
	基本的な生活習慣と、規範意識の確立を目指す。	進路指導部・学年・保護者との連携を深める。	A		
		模試等の結果を分析し、各教科との連携を図り、適切な指導を行う。	B		
第3学年	基本的な生活習慣と、規範意識の確立を目指す。	欠席・遅刻・早退を少なくし、学校生活に積極的に取り組む。	B	B	
		社会に通用する身だしなみ、ルールを守る意識、マナーなどを身につける。	A		
	最上級生としてリーダーシップを発揮し、高校生活の充実に努める。	一般常識や社会常識を身につける取り組みを促進する。	B		
		部活動・委員会・学校行事等に積極的に取り組む。	B		
第3学年	最上級生としてリーダーシップを発揮し、高校生活の充実に努める。	清掃活動・ボランティア・社会奉仕などの活動に自主的に取り組む。	B	B	

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない